

第3章

計画の目標

1. 基本理念

横浜の良好な環境を維持し未来に伝えるため、水と緑の果たしている役割を十分に踏まえ、水・緑環境に対する市民の意識・期待を反映した、計画の基本理念を「横浜らしい水・緑環境の実現」とし、市民・事業者・行政の連携・協働により実現していくこととします。

2. 目標像

本計画が目指す水と緑の目標像を「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」（目標年次：2025（平成37）年）とします。

多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境

都市の姿

○緑が市街地に引き込まれています

- ・緑の10大拠点では、まとまりのある緑が保全され、市街地では身近な公園など緑の拠点が増えています。
- ・森と丘と海をつなぐ水や緑の軸により、ネットワークが形成されています。
- ・緑が適切に管理され、市民生活の安全にも寄与しています。

○健全な水循環が回復しています

- ・水源の緑、谷戸が保全されています。
- ・流域の貯留・涵養機能が回復しています。
- ・河川などの水量・水質が回復しています。
- ・海域の水質が回復しています。
- ・大雨への備えが進んでいます。

○地域の中で農のある暮らしが息づいています

- ・魅力ある農景観が保全されています。
- ・地産地消が進み、市内産の農畜産物が食卓を賑わしています。
- ・農とふれあう場が充実しています。

○都心臨海部に水と緑が増え魅力が高まっています

- ・開港以来の歴史や文化とともに、豊かな水と緑が育まれています。
- ・魅力ある水と緑の空間が創出され、賑わいが生まれています。

○多様な生き物が生育・生息できる環境が形成されています

- ・生き物の生育・生息環境の保全・回復が図られ、エコロジカルネットワークが形成されています。

○風が都市に引き込まれています

- ・河川沿いに涼やかな風が流れています。
- ・ヒートアイランド現象が緩和されています。

市民の姿

○水や緑との様々な関わりが深まっています

- ・多様な世代が水や緑と関わり、生活の楽しみを広げています。
- ・水や緑が市民により支えられ、育まれています。
- ・多様な交流が水や緑により生まれています。
- ・市民が水や緑と関わることで新たな文化が生まれています。

目標像

多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境





ボランティア活動に参加する

文化と歴史を知る

森の中で創作活動をする

自然観察会に参加する

川沿いを歩く

生き物に触れ合う

さわやかな風を感じる

水辺で遊ぶ

地元の食材を味わう

公園や広場で思い思いに過ごす

井戸水を活用する

雨水を利用する

アート作品を楽しむ

みどりを通じて交流する

多くの人が訪れ賑わう

3. 横浜の水・緑環境の姿を示す指標

本計画で掲げる「基本理念」や「目標像」の実現に向けての指標を次のとおりとします。

(1) 基本指標

市域面積に対する緑の割合である緑被率に、グラウンド等の緑に囲まれた空間の面積率と水面の面積率を加えた、水・緑環境の総量を示す指標として『水緑率』を設定します。

本計画に基づく様々な施策を市民・事業者・行政の協働で取り組むことにより、『水緑率』（市域面積の約35%）をさらに向上させます。

■水緑率の内訳

●緑被率		長期目標 (平成37年)	計画策定時 (平成16年)		現況 (平成26年)			
樹林地	民有山林（市民の森、社寺林等を含む） 公有山林（公園、市有緑地等の緑） 公共施設の緑 住宅地の緑（住棟間の緑、連続した街路樹） 工場・事業所の緑化	水緑率35%を さらに向上 (緑被率31%を さらに向上)	約18%	水緑率 約35% (緑被率 約31%)	約17%	水緑率 約33% (緑被率 約29%)		
農地	耕作地 休耕地（土の状態）		約7%		約31%		約6%	約29%
草地	広場の草地（公園の草地広場等を含む） 不耕作地、空き地、遊休地の草地 事業予定地、造成地等		約6%				約6%	
●グラウンド等の緑に囲まれた空間の面積率								
都市公園の広場・グラウンド等			約3%		約3%			
都市公園に準ずるもの（港湾緑地等）の広場等								
樹林地、農地の広場等								
学校の校庭・グラウンド 雨水調整池・遊水地等の広場								
●水面の面積率								
河川等の水面			約1%		約1%			
都市公園内の水面								
都市公園に準ずるもの（港湾緑地等）の水面								
ため池・雨水調整池・遊水地の水面								
水緑率(合計)		35%を さらに向上	約35%		約33%			

(2) 流域の状況を把握

流域単位の推進計画を進めるうえで、水と緑の物理的な量の状況（量）、質的な充実状況（質）、市民生活との関わりの状況（魅力）により水・緑環境の現況を把握します。

■流域の状況把握

分類		内容
量 水と緑の物理的な量の状況	水緑率	緑被率に、グラウンド等の緑に囲まれた空間の面積率と水面の面積率を加えた、水・緑環境の総量である「水緑率」
	水循環	樹林地や市街地など、土地の状況を踏まえた雨水浸透率及び水環境目標に定める「流速」と「水深」などの補助目標の測定結果
質 質的な充実状況	水と緑の質	まとまりのある緑地を質の高い緑としてとらえ、各流域における担保されたまとまりのある緑地の割合 水環境目標に定める「生物指標による水質評価」と「BOD」、「ふん便性大腸菌群数」の測定結果
	生物多様性	生物調査結果などから把握された、陸域・水域の生き物など、流域ごとの自然環境の特徴
魅力 市民生活との関わりの状況	身近な水と緑	水や緑の拠点などをつなぐ河川や街路樹などのネットワークの状況や、市民に身近な農体験の場、市民が利用できる緑地・公園など、身近に感じる水と緑の状況

※ 水環境目標については P.80-81 に表す。

(3) 各指標に関する継続的な検討

効果的・効率的に計画を推進していくためには、水・緑環境の状況を的確に把握する必要があります。そのため、各指標の測定や評価の方法について、継続的に研究及び検討していくとともに、新たに確立された評価手法なども積極的に取り入れていきます。

